

# モーニングセミナー 05

テーマ：ビタミンCとその誘導体の皮膚浸透性

座長：川田 暁先生 近畿大学医学部皮膚科学教室 教授



ビタミンC 誘導体の皮膚浸透性とは？  
 ビタミンC 誘導体の院内での応用方法とは？  
 全てが今ここに！

2014年5月31日(土)

8:30 ~ 9:30

国立京都国際会館 第6会場 (RoomE)

## 演題 1：化学物質の皮膚透過性とその予測：ビタミンCとその誘導体の皮膚浸透性



Kenji Sugibayashi  
 杉林 堅次 Ph.D.

城西大学薬学部  
 薬粧品動態制御学研究室 (薬科学科)  
 教授

医薬品や医薬部外品の有効性評価、さらにはこれらと化粧品中に含まれる種々成分の安全性評価にはそれぞれの化学物質の皮膚透過性（体内濃度）と皮膚（組織）中濃度を基準として考えなければならない。このことは 1960 年代に医薬品主成分のバイオアベイアビリティが注目されたときに、また、時代を経て、薬効の適正化に治療薬物モニタリング（TDM）が使われ、さらにはジェネリック医薬品の開発方針が決まった時に、すでに科学的に実証されたことであったのに、化粧品の開発や有効性・安全性評価においては、いまだ十分周知されていないと感じる。本セミナーでは、皮膚に適用する化学物質の有効性と安全性を評価する際には、どのような物性のものが皮膚に吸収され、また、高い皮膚中濃度を示し、その結果として有効か、また安全かについて、角層中とそれ以下に続く表皮・真皮を2つの拡散バリアーと捉え、特にビタミンCとその誘導体に注目して、説明する。

## 演題 2：新規ビタミンC 誘導体 GO-VC の機能性と院内での応用



TAKESHI NAGATA  
 永田 武

株式会社アイ・ティー・オー  
 プロビタミンリサーチセンター  
 主任研究員

ビタミン C(VC) 誘導体は、高いスキンケア機能のある化粧品原料であるが、既存品は安定性が不十分で皮膚の乾燥等の副作用を誘導する。最近開発された両親媒性でノニオン型のグリセリルオクタスコルビン酸 (GO-VC) は、グリセリンとオクタノールを持ち、高い安定性、吸収性、保湿性と抗菌性が期待される。メラニン産生抑制作用、線維芽細胞増殖作用及びコラーゲン産生促進作用も確認され、臨床試験でもニキビ、色素沈着、毛穴、シワに対する効果が確認されている。今回は、この GO-VC の機能性について紹介するとともに、従来の VC 誘導体との使い分け、院内製剤の作製方法、保存方法などについても詳しく紹介する。

株式会社アイ・ティー・オー



東京都武蔵野市中町 1-6-7-3F  
 TEL: 0120-31-6588  
 FAX: 0120-83-6566  
 URL: <http://www.provitamin.jp>

無償サンプルあり

共催：第 113 回日本皮膚科学会総会  
 株式会社アイ・ティー・オー